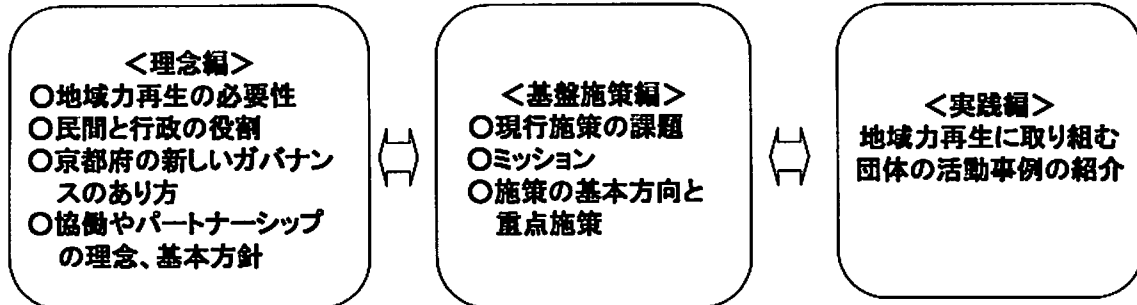


# 京の力、明日の力ー地域力再生支援プラン（概要版）

## <地域力再生支援プランの構成>



## <地域力再生支援プランの概要>

### I 地域力再生についての基本的考え方

#### 1 京都府ではなぜ今、地域力の再生を進めるのか

- 自殺や児童虐待の増加、地域雇用の不安、地域文化の衰退等地域発の問題が京都でも発生
- 高度成長やバブル経済を経て、人と人との関係が希薄に、勤勉で調和を尊んだ社会的基盤が変質、コミュニティが弱体化
- 東京一極集中により、京都の情報発信力や経済力が低下。東京と京都、京都内部での地域格差も大きな問題として顕在化



- 地域から起こった問題は、地域に暮らす人たちがまず考え、自ら行動し、応分の負担をしていくことが重要
- 府民やNPO、行政、企業、大学等が平等で、責任ある立場で連携・協働し、お互いを活かしながら地域をつくっていく、新しい「共治」のシステムを実践を通じて作りあげていかなければ、本当の地域の自立や再生は実現できない。



人と人がつながった温かい地域社会をつくり、誰もが明日に希望が持てる京都府をめざす取組“地域力再生プロジェクト”をスタート



息の長い地域力再生の取組を進め、本当の「住民自治社会の実現」、「自立した地域社会の新しいモデル形成」を京都から実践

## 2 地域力再生をめぐる民間と行政との役割

地域力の再生を担う活動主体として、

- |   |                           |
|---|---------------------------|
| <input type="radio"/> 町内会や自治会などの住民による自治組織 | <input type="radio"/> NPO |
| <input type="radio"/> 学校や交番               | <input type="radio"/> 大学  |
| <input type="radio"/> 企業                  | <input type="radio"/> 市町村 |
| <input type="radio"/> 都道府県                |                           |

の7つの主体の役割を記述。個人レベルでの地域力再生の担い手として、団塊の世代、女性、大学生、児童・青少年についても言及。

## 3 京都府の新しいガバナンスのあり方

地域力再生を進めていくために、以下のような京都府の新しいガバナンスを構築していく。

### ①民の力の強化

自治組織やNPOなどの民間の主体が、新しいガバナンスの主体になれる施策に力を入れる。

### ②行政の府民参画・地域参画

「行政の府民参画・地域参画」を進め、府民と行政との新しく、豊かな関係性を築いていく。

### ③マルチネットワーク型のガバナンス

地域力再生を含めた京都府の事業において、市町村や地域の自治組織、NPO等の多様な主体との水平的ネットワークづくりを重視し、課題の内容や地域の実情に応じて常に最適の答えがみいだせるマルチネットワーク型のガバナンスを志向。

### ④スリムで最適な政府づくり

経営改革プラン等に基づく経営改革を推進することにより、府民サービスの向上や地域力再生のための財源を確保するとともに、最適な京都府づくりを実現する。

## 4 地域力再生を実現するための協働やパートナーシップの理念と基本方針

地域力再生を進める際の、民間と行政との協働やパートナーシップの基本方針を以下のとおりとする。

### ①対等、水平型の協働・パートナーシップ

地域力再生に携わる様々な主体が、対等のパートナーとして水平に結びつき、それぞれが責任を持ちつつ、役割や力を発揮できるよう努める。

### ②活動のオープン性の確保

地域力再生に関する様々な活動が、企画の段階からより多くの地域住民や他の活動主体が参加できるよう、常に開かれたものとする。

### ③多様性、異質性の確保

2者よりも3者、3者よりも4者、より多様な価値観を持つ主体がパートナーとして様々な形で参画、協働できるよう努める。

### ④プロセスの重視

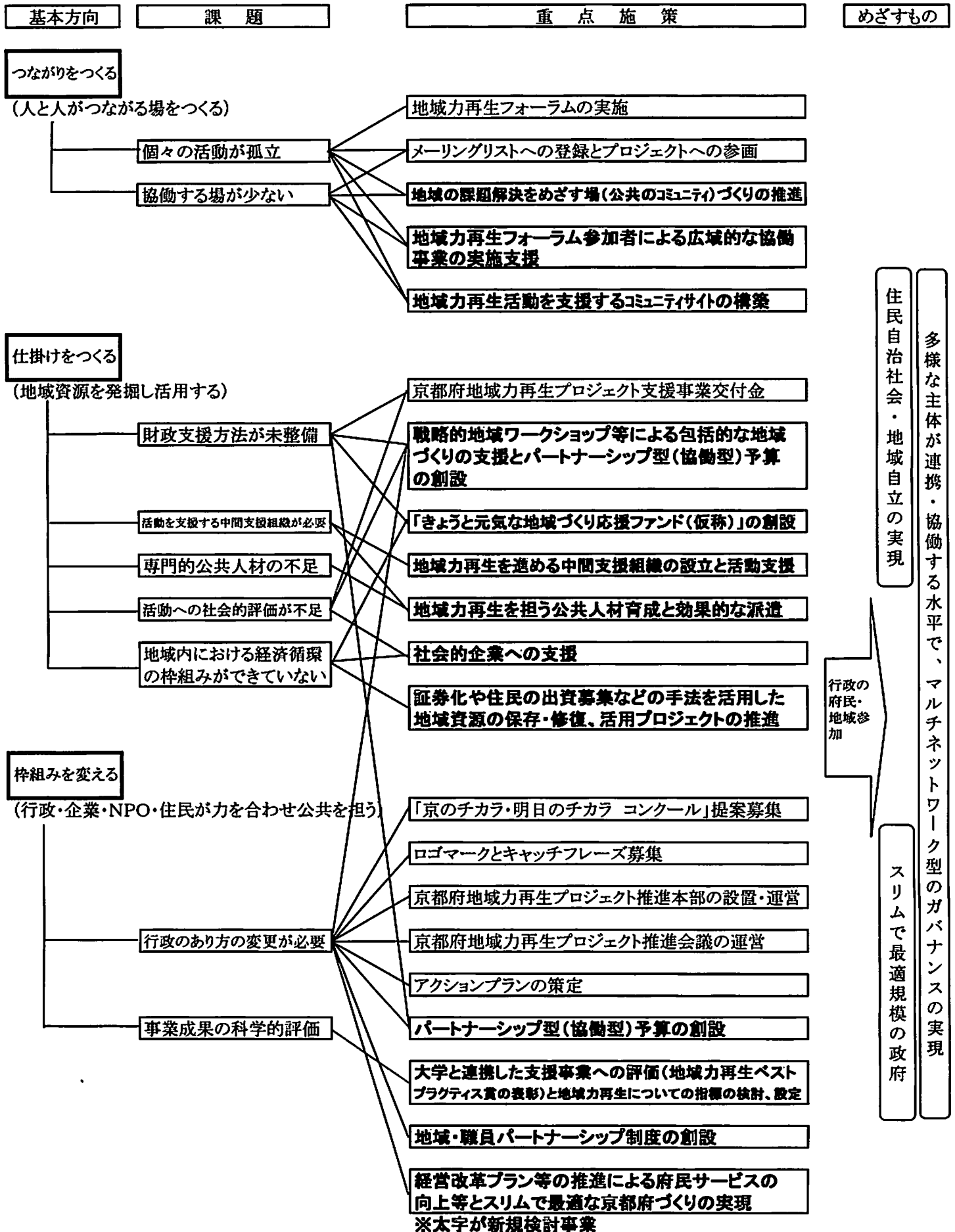
多様な主体間の関係づくり、信頼づくりに時間をかける。結果だけを求めて焦らない。

### ⑤縦割りの回避

地域の課題を個別にとらえ、行政の縦割りで判断せず、持続可能な地域づくりをめざして社会、環境、経済を意識した総合的な対応策を模索する。

## II 『京の力、明日の力ー地域力再生支援プラン』 施策の基本方向と重点施策

**京都府地域力再生プロジェクトのミッション**  
 人と人がつながった温かい地域社会を築き、京都の新しい魅力・価値の創造や、より質の高い公共サービスを提供する京都府の実現



行政の府民・地域参加

■参考

1 検討委員会（地域力再生プロジェクト推進会議・作業部会）

	氏名	所属
○	足立 喜代美	地・生きネット京都代表
	幾世 英夫	天橋立文珠繁栄会会長
	井上 正嗣	宮津市長
◎○	今川 晃	同志社大学政策学部教授・大学院総合政策科学研究科教授
	太田 貴美	与謝野町長
	太田 昇	京都府総務部長
	葛西 宗久	京都市総合企画局長
○	木原 勝彬	ローカル・ガバナンス研究所所長
	木村 要	精華町長
	住友 正歳	子ども・地域安全見守り隊（山階みまもり隊）代表
	高木 隆慈	御城会代表
	直野 信之	京都新聞社編集本部報道局総務
○	中村 順子	NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸理事長
	橋本 昭男	城陽市長
○	山口 洋典	同志社大学 大学院総合政策科学研究科 准教授

※◎は座長、○は作業部会のメンバー

（五十音順 敬称略）

2 地域力再生プロジェクト推進会議等の開催状況

<地域力再生プロジェクト推進会議>

推進会議	日時	場所	内容（意見交換）	出席者
第1回	6/4 10:00	平安会館	・アクションプランの策定について	21名
第2回	8/28 13:30	平安会館	・中間案の議論、承認	24名

<作業部会>

作業部会	日時	場所	内容（提案及び意見交換）	出席者
第1回	7/2 18:00	同志社大学 京町家キヨバス 江湖館	・地域力再生の必要性、民間各主体と行政との役割、 協働・協創のパートナーシップの理念と基本方針 ・地域ガバナンスとマルチパートナーシップを実現する 地域政府の役割	18名
第2回	7/10 18:00	NPOパートナーシップ センター会議室	・NPOを核とした地域ネットワークの拡大 ・コミュニティ・サポートセンター神戸からみた地域 力の再生の課題と提案	19名
第3回	7/20 16:30	be-京都	・地域力再生を進める中間支援組織と支援のあり方 ・地域コミュニティ活動における地域SNSの役割	20名
第4回	7/31 13:30	平安会館	・新たな公益の担い手としての社会的企業の可能性 ・地域力再生を担う公共人材の育成と派遣	17名
第5回	8/7 14:00	平安会館	・基金の創出など資金的支援方法 ・地域資源の証券化 ・中間案の議論	18名
第6回	8/23 13:30	平安会館	・中間案の議論	15名